



## オリンピック・パラリンピックが残すもの

施設長 浅見 僚子

東京オリンピックがいよいよ3日後に開幕します。1964年以来56年ぶり、2回目の開催はアジアで初めてとなる東京オリンピックです。8年前、東京に決定した歓喜の瞬間からは想像できなかったコロナ禍での開催となりますが、今まで努力を重ねて来られた選手の方々が存分に力を発揮され、大会が無事に終わることを心から祈ってやみません。

オリンピックに向けて建設された新国立競技場は、「世界最高水準のユニバーサルデザイン」を基本理念に掲げています。その実現に向け、設計段階から施工段階において、高齢者、障害者団体及び子育てグループ等14もの団体の参画を得て、ユニバーサルデザインワークショップを開催し、関係者の意見を集約してきました。

参加団体からは、観客席・移動空間・トイレ・サイン（案内版）等、85項目の要望が出されています。中でもトイレについては38項目もあり、団体の意見が大いに生かされています。車いすやストレッチャー利用の方の広いトイレ、オストメイト利用の方のトイレ、LGBTの方のトイレなど多様なニーズに対応できる様々な配慮がされています。また、一般のトイレでは見られなかった付添利用対応トイレも実現しています。介護などによる異性付添利用に対応できるよう、広いトイレの個室にカーテンを取り付けた男女共用トイレ。また、発達障害者等（待機者）とその付添者が共にトイレを利用する際、付添者がトイレを使用している最中に待機者が数を数えて待機できるサインを設置した男女共用トイレもできました。待機者が単独で出て行かないよう工夫されています。

14団体の一つに『東京都手をつなぐ育成会』があります。2年前の『ねりま手をつなぐ育成会』の「新成人と還暦の方を祝う会」に出席した際、『東京都手をつなぐ育成会』の会長が来賓でいらっしゃって、ワークショップでの様子を話してくださいました。

理解をしていただくのがとても大変だったのは、「カームダウン・クールダウンスペース」だったそうです。パニックを起こした時に落ち着くための部屋です。日本の競技場では、初の施設になります。一般の認識ではまだまだ広まっていないため、気持ちを落ち着かせるための部屋が何故必要なのかわかっていただくために、何度も会議が重ねられたそうです。共生社会の実現に向けて、私達障害者と関わる者は、機会をとらえて地域・社会の人々に、声を届けていく必要性を強く感じました。

コロナの影響により開催への賛否両論渦巻く中で、オリンピック・パラリンピックの様々な取り組みがあまり報道されていないことを残念に思います。新国立競技場が「標準」となって今後の施設建設に広まっていき、オリンピック・パラリンピックを大きなステップとして、日本中で障害への理解がさらに深まっていくことを期待しています。



新しいピクトグラムにも注目

### ＜お知らせ＞

9月11日（土）に法人の実践発表会を開催します。その関係で、9月11日に予定していた開所日を9月25日に変更させていただきます。実践発表会については、後日、詳細をお知らせいたします。急な変更で申し訳ございませんが、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

# 8月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8 山の日	9 休日	10	11	12	13 夏期休暇	14 夏期休暇
15 夏期休暇	16 夏期休暇	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28 開所日
29	30	31				

## 6月26日(土)・27日(日) 東小金井で開催された ウェルフェアトレードフェスタに参加しました！



大きな壁一面に各事業所の方の作品をイラストレーターの小池アミイゴさんによって当日来場したお子様が色を足すなどの融合を行い、大きな絵となりました。一つの作品が完成されました。

台風接近により雨風予報でしたが、何とか雨風の影響もなく、お客様も延べ760人ほどが足を運んで下さった様です。利用者のイラストを「面白い」「素敵！」と評価して下さった声を沢山にする事が出来ました。

